

国語 1次 正答率・講評

| 問題 | 正答率 (%) | | | | 講 評 |
|---------|---------|------|------|------|---|
| | 受験者 | | 合格者 | | |
| | 完全 | 部分 | 完全 | 部分 | |
| 問一 | 2.2 | 97.3 | 3.7 | 96.3 | <p>問題文の出典は、渡邊格『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』（講談社）。パン屋を開業するまでの筆者の経緯が経済的な社会問題との関わりと合わせて綴られている。パンの製造に関わる話に加え、日常的な実践と社会的な問題の結びつきを考えることができる文章になっている。</p> <p>読解の中心となるポイントは三つあり、二重傍線X・Y・Zで示されていた。「イーストと天然酵母との違い」・「技術革新」・「『食』の問題」というポイントを押さえながら文章を読み進めていき、最後に筆者が開業したパン屋がもつ社会的な意味を捉えるという構成になっている。</p> <p>問一～四の基礎的な問題は概ねよくできていた。漢字の問題では「利知」をした誤答が見られた。また、「徒弟」は漢字そのものというよりは語彙力を問う問題であった。馴染みの薄い言葉であったためか、正答率は高くなかった。</p> <p>問五もよくできていたが、AとBの記号を全て反対に答えてしまった解答が一定数あり、設問の読み取りミスではないかと思われる。</p> <p>他の設問でも、抜き出しの問題での写し間違いや指定字数の数え間違い、記述問題の解答における本文中にある言葉の誤字などが見られる場合があり、解答の精度を上げることで得点の向上を望める部分が多分にあると感じられた。</p> <p>問十一の(1)では、1、2箇所の誤答というケースは少なく、得点に差のつく問題となった。文意の解釈という意味での読解力ではなく、数値の理解に関する情報処理の力を問う問題である。また、(2)は、「技術革新」と「利潤」との関係について、算数的な思考を言語化する問題であった。多くの答案が結論部分を答えることはできていたが、そこに至る過程まで上手く説明できている答案は少なく、得点に差が生じていた。「数値を具体的に挙げながら」という設問の条件に対応できる力が必要であった。</p> <p>問十四は、傍線部の状況を具体的な事例に当てはめて考えることのできる思考力が求められていたが、正解率は高くなかった。</p> <p>問十五は、パン職人という存在の変化の指摘に加えて、パン職人における「労働」の「単純化」についても触れなければならない、二つの対応を同時に行うという難易度の高い問題であった。要素が二つ必要になることを理解している解答は得点を得ることができ、未解答の者との差が明確になった。</p> |
| 問二 | 39.5 | 60.1 | 50.0 | 50.0 | |
| 問三 | 53.4 | 46.6 | 63.4 | 36.6 | |
| 問四 | 19.7 | 79.8 | 28.0 | 72.0 | |
| 問五 | 76.7 | 19.7 | 89.0 | 8.5 | |
| 問六 | 47.5 | 10.8 | 59.8 | 8.5 | |
| 問七 | 68.6 | 29.6 | 74.4 | 23.2 | |
| 問八 | 49.3 | | 58.5 | | |
| 問九 | 45.3 | 45.7 | 56.1 | 40.2 | |
| 問十 | 16.1 | 46.2 | 24.4 | 46.3 | |
| 問十一 (1) | 36.8 | 59.2 | 51.2 | 47.6 | |
| 問十一 (2) | 3.6 | 39.0 | 4.9 | 50.0 | |
| 問十二 | 56.5 | | 70.7 | | |
| 問十三 | 39.9 | 7.2 | 50.0 | 9.8 | |
| 問十四 | 39.5 | | 46.3 | | |
| 問十五 | 0.4 | 44.4 | 0.0 | 54.9 | |
| 問十六 | 57.4 | | 70.7 | | |
| 問十七 | 22.9 | 56.5 | 35.4 | 54.9 | |
| 問十八 | 53.8 | | 63.4 | | |

国語 2次 正答率・講評

| 問題 | 正答率 (%) | | | | 講 評 |
|-----|---------|------|------|------|--|
| | 受験者 | | 合格者 | | |
| | 完全 | 部分 | 完全 | 部分 | |
| 問一 | 22.7 | 77.3 | 32.3 | 67.7 | <p>問題文の出典は、(一)西加奈子「孫係」と(二)加藤秀俊「ペルソナと変身願望」。</p> <p>(一)祖父と孫の「私」が、ふとしたきっかけで意気投合し、それぞれ「孫係」「爺係」として「仲の良い祖父と孫」を演じる「契約」を結ぶ。「私」は「係」を演じて周囲をあざむくことに後ろめたさを感じるが、祖父から他人のために「係」を演じることは「思いやり」の表れなのだと諭される。「私」は「正直なことで優しいこと」の違いを祖父から学ぶのだった。</p> <p>(二)人間は誰しも「変身願望」を抱いている。そして不思議なことに、外面の変化は内面の変化を引き起こす。だが変身願望は別の存在になることへのあこがれだけでなく、不安もまた含んでいる。いわば「変身願望」とは、不安を抱えながらも理想的な自分や将来なりたい自分の姿を思い描き、その理想像に近づけるように努力するという、人間の「向上心」とかかわるものであるといえる。何かを演じるということは「こころの仮面」をまとうことであり、生きるということは人生という劇(ドラマ)における演技にほかならない。</p> <p>問一(漢字問題)は概ね良くできていたが、問題を個別に見ていくと「興じる」が書けていない答案が目立った。漢字は単独で覚えていくだけでなく、文脈でその使い方と合わせて理解していくとよい。</p> <p>問四および問五(選択肢問題)の空欄補充は文脈の把握力をみる問題であったが、やや抽象度が高く、結果として得点に差のつく問題となった。また、やはり正答率の低かった問十(選択肢問題)は、(一)に付された傍線部の内容を(二)の文章の論旨に沿って言い換えたものを選ぶ選択肢問題であった。文章をまたいでの設問にとまどった受験生が多かったようである。いずれも文章の中心的な話題を意識した読解できているかどうかで大きく差がついた。</p> <p>問十四(記述問題)では、「相手の心情を思いやる(考慮する)ことができずに」という要素を欠いた答案が多かった。問十五(記述問題)は、例を本文から三つ挙げてまとめるものであったが、提示した例が適切でないものや、例を羅列するだけでまとめを欠いたものが見られた。問十六(記述問題)は、要点を抽出せずに、本文の抜き出しをそのまま使っている解答が多く見られた。記述問題に関しては、日頃から問題の条件に合わせて解答を作るトレーニングの積み重ねが大切である。</p> |
| 問二 | 5.0 | 93.2 | 9.0 | 90.4 | |
| 問三 | 2.7 | 87.9 | 5.4 | 91.6 | |
| 問四 | 49.3 | | 60.5 | | |
| 問五 | 23.0 | 70.5 | 31.1 | 65.9 | |
| 問六 | 91.7 | | 93.4 | | |
| 問七 | 93.2 | | 97.6 | | |
| 問八 | 92 | | 94.6 | | |
| 問九 | 76.4 | | 86.8 | | |
| 問十 | 46.9 | | 58.1 | | |
| 問十一 | 89.7 | | 96.4 | | |
| 問十二 | 51.9 | | 64.7 | | |
| 問十三 | 82.3 | | 89.2 | | |
| 問十四 | 2.7 | 69.3 | 4.2 | 73.7 | |
| 問十五 | 3.8 | 44.8 | 7.2 | 55.7 | |
| 問十六 | (一) | 2.7 | 35.4 | 3.6 | 40.7 |
| | (二) | 3.2 | 26.5 | 4.8 | 32.3 |

国語 3次 正答率・講評

| 問題 | 正答率 (%) | | | | 講 評 |
|-----|---------|------|------|------|---|
| | 受験者 | | 合格者 | | |
| | 完全 | 部分 | 完全 | 部分 | |
| 問一 | 13.0 | 86.0 | 21.4 | 77.1 | <p>問題文の出典は、吉行淳之介「子供の領分」。</p> <p>リード文にもある通り、昭和10年代を舞台にした作品である。中心となる登場人物は受験生とほぼ同世代だが、時代背景や文章表現などが現代のそれと異なる部分も多く、状況や心情を捉えるのに苦労したかもしれない。</p> <p>場面は三つに分かれ、少年AとBが犬屋へ行く場面、二人が雪遊びをする場面、その後の雀を見つける場面となっている。友人ではあるが、社会的階層に差があるAとBの間にある微妙な感情が、場面ごとに揺らいだり変化したりするのを丁寧に把握できるかを問うことを作問のコンセプトとした。</p> <p>以下、問題別にコメントを付す。問一（漢字問題）について。「沿線」は「延線」「園線」、「丁重」は「丁調」、「無性」は「無精」「無償」の間違いがあつた。「応接間」は、語義自体が理解されていないと思われる解答が目立った。漢字力と語彙力はリンクしているので、ぜひそのことを意識して学習に取り組んでほしい。</p> <p>問四は、「AがBに気づかいしつつ優位を示したい」と判断できないものを選ぶ問題。本文には「二人の少年は～や手もちぶさたに、歩いてた」とあるので、Aがそのように感じていたかは不明。また、エは他の選択肢と比較しても気づかいや優位を誇示する度合いは薄いと考えられる。問七は選択肢が三行にわたっていたので、ポイントを押さえるのが難しかったようだ。整理してみると、Aは犬に噛まれた際にBに笑われたことを腹立たしく感じ、切符を渡すときに偉そうな態度を取ったが、それについてやりすぎたと思っている。一方、BはとっさにAを笑ってしまったことに気まずさを感じており、お互いに取り繕おうとして不自然な態度になってしまったのである。問十、直前部分の「そういうBに、Aは暖い友情を持った」からウを選択した受験生もいたかもしれないが、傍線部は「Bが勇者であることを傷つけてはいない」であるのに注目したい。その言い換えだと考えると、アが正解だと判断できるだろう。問十二、直前部分の抜き出しが多かった。もちろん、解答する上で注目すべきポイントではあるが、「地面／そこから離れた場所」の両方を踏まえることが必要になる。</p> <p>問十四、多くの受験生が悪いことをしたことへの「償い」だとは理解できていたよう。しかし、内容が抽象的なままだったり「～すべきではないこと」といった解答者の判断が含まれてしまっていたりする解答も見られた。</p> <p>問十六は手紙形式ということもあり、表現面では概ね指定に沿って解答できていた。内容的には、雀の件について謝罪がないものが多かった。Yの出来事を踏まえてという指定をしっかりと押さえたところである。最終的には二人の関係がよくなってほしいという、母親の配慮や願いが見えるような解答が求められた。この設問の意図は、立場や年齢、性別が自分とは異なる視点からものごとを考えることができるかというもの。受験生の今後を考えたとき、テキスト読解はもちろん、日常生活の中でも多様かつ複数的な視点を持つことが求められていくだろう。その意味で、普段からそのような視点を意識し、またそれを言葉で理解したり表現したりすることが大切になってくる。小説を読む際に、主人公だけではなく周囲の人物の気持ちにも気を配るなどしてほしい。</p> |
| 問二 | 4.0 | 75.5 | 5.7 | 82.9 | |
| 問三 | 64.5 | | 71.4 | | |
| 問四 | 43.5 | | 48.6 | | |
| 問五 | 46.5 | | 60.0 | | |
| 問六 | 51.0 | | 62.9 | | |
| 問七 | 35.5 | | 45.7 | | |
| 問八 | 53.5 | | 65.7 | | |
| 問九 | 43.5 | | 52.9 | | |
| 問十 | 33.0 | | 37.1 | | |
| 問十一 | 28.0 | | 34.3 | | |
| 問十二 | 7.0 | 63.0 | 10.0 | 77.1 | |
| 問十三 | 17.0 | 71.5 | 25.7 | 68.6 | |
| 問十四 | 8.0 | 44.0 | 15.7 | 55.7 | |
| 問十五 | 51.5 | | 62.9 | | |
| 問十六 | 1.5 | 74.0 | 2.9 | 80.0 | |